

令和5年6月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km²)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,833	9,100	4,617	4,483	24	28
2 千 石	4,158	6,876	3,476	3,400	25	25
3 内 山	5,740	7,946	4,249	3,697	8	△ 2
4 大 和	3,585	6,689	3,296	3,393	15	15
5 上 野	7,543	15,505	7,579	7,926	10	23
6 高 見	7,339	13,229	6,328	6,901	8	19
7 春 岡	7,003	10,954	5,798	5,156	12	19
8 田 代	11,343	21,884	10,452	11,432	4	28
9 東 山	10,337	19,040	9,275	9,765	8	△ 3
10 見 付	4,603	8,535	4,278	4,257	△ 4	△ 2
11 星 ケ 丘	3,569	6,834	3,038	3,796	△ 7	9
12 自 由 ケ 丘	3,532	7,185	3,270	3,915	△ 4	△ 8
13 富 士 見 台	6,505	15,127	6,860	8,267	△ 8	△ 26
14 宮 根	3,817	8,049	3,727	4,322	△ 2	△ 17
15 千 代 田 橋	3,746	8,255	3,876	4,379	3	△ 8
千 種 区 計	88,653	165,208	80,119	85,089	92	100
R4. 6. 1	87,353	165,076	80,041	85,035	359	378
対 前 年 比	1,300	132	78	54	△ 267	△ 278
名 古 屋 市	1,154,111	2,325,950	1,141,679	1,184,271	1,300	656
愛 知 県 (R5. 5. 1)	3,316,056	7,481,957	3,725,787	3,756,170	10,446	6,327

前月中の 増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	91	124	△ 33	1,025	892	133

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口と最小人口(千種区)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118	最大人口	173,598 (昭和50年2月1日)
平成2年	156,478	平成22年	160,015	最小人口	146,727 (平成11年4月1日)
平成7年	148,847	平成27年	164,696		
平成12年	148,537	令和2年	165,245		

注) 学区別の世帯数と人口は、令和2年国勢調査結果の本市独自集計速報値であり、後日総務省から公表される数値と異なる場合があります。

千種区の年齢3区分別人口の概況

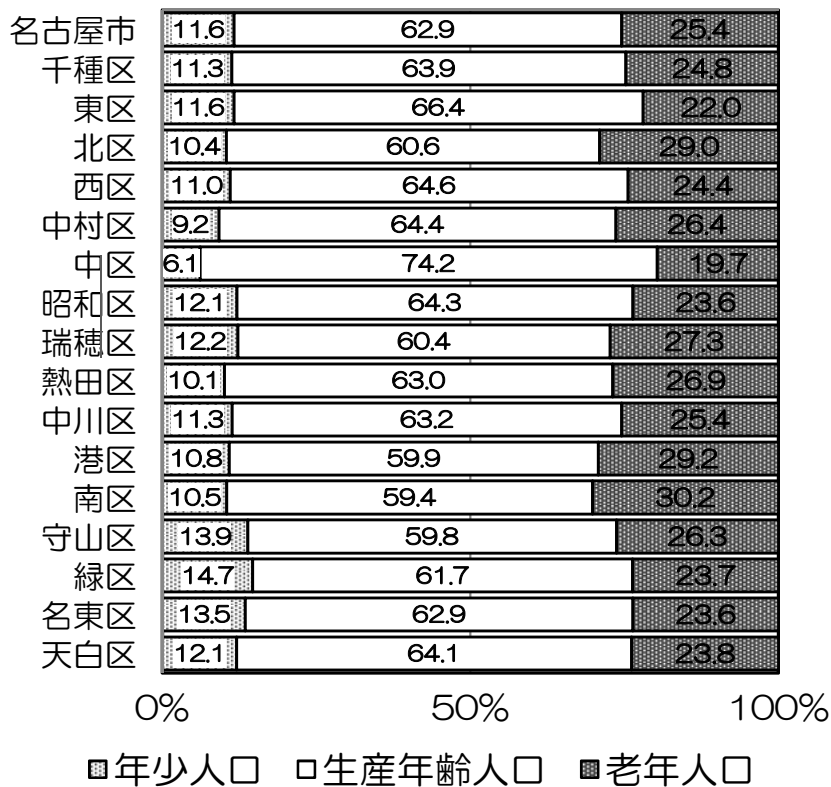


図1: 区別年齢3区分別人口比率 (令和4年10月1日現在)

今回はまず、千種区の年少人口（15歳未満）、生産年齢人口（15～64歳）および老年人口（65歳以上）の比率について見てみます（図1）。

名古屋市全体および各区の令和4年10月1日現在の年齢3区分別人口比率をみると、年少人口比率は緑区が14.7%と最も高く、千種区は11.6%で16区中8位です。

生産年齢人口比率は中区が74.2%と最も高く、千種区は63.9%で16区中7位です。

老年人口比率は南区が30.2%と最も高く、千種区は24.8%で16区中9位です。

千種区の3区分別人口比率は名古屋市の比率とほぼ同じとなっています。

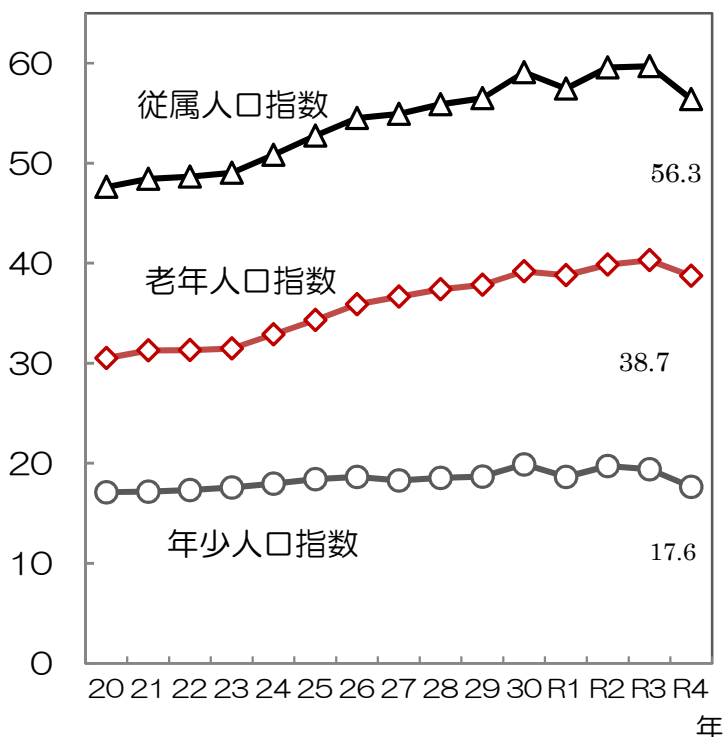


図2: 千種区の年齢構成指数の推移 (各年10月1日)

次に、千種区の年齢構成指数の推移を見てみます（図2）。年少人口指数および老年人口指数は、生産年齢人口100人が年少者または高齢者を何人支えるかを示すものです。また従属人口指数は、年少人口指数と老年人口指数を合計したものです。

千種区の令和4年の年少人口指数は17.6、老年人口指数は38.7で、16区中の高い方からそれぞれ6位となっています。また、千種区の令和4年の従属人口指数は名古屋市全体（58.9）及び令和3年の千種区従属人口指数（59.7）を下回り56.3です。これは16区中高い方から10位（令和3年：7位）となっています。